

# 麻酔科プログラム

## 一般目標

麻酔科の診療は、手術患者の麻酔管理を始め、集中治療室での全身管理、救急蘇生、ペインクリニックなど多くの領域にわたる。このためには、呼吸、循環、神経内分泌等の生理学、臨床薬理学など知識はもちろん、緊急時に対応できる種々技術が必要とされる。また、患者の意識がない状態での診療を多く経験する中で、患者の人格を尊重する心が必要である。このように科学的かつ人間的な医療を行う姿勢を初期研修期間に身につけ、将来有能な臨床医を養成することが研修の目標である。

## 具体的目標

- ① 患者の診察、検査結果、病歴などから全身状態を把握し、予定される手術術式を考慮の上、必要な術前管理、麻酔法の選択、輸液、輸血、モニタリングを含む術中管理、術後管理の計画を立てられるようになる。
- ② 麻酔を行う上で基本的手技である気道確保、人工呼吸、気管内挿管、静脈、動脈カニューレション、硬膜外カテーテル挿入（見学も含む）、脊椎麻酔（見学も含む）などの技術を習得する。
- ③ 臨床を通して、麻酔中使用する薬剤の基本的薬理作用、使用方法などを理解する。
- ④ 患者モニターの意義と適応、データの解釈を理解した上で術中の呼吸、循環、体液管理を習得する。また患者の状態の変化を素早く察知し、適切な対応の仕方を習得する。

## 方略

- ① 上級医の指導のもと、担当する症例の術前患者情報収集及び術前回診を行い、具体的な麻酔計画を立てる。
- ② 上級医の指導のもと、手術麻酔を施行する。患者の合併症に関して自分なりの評価、麻酔時の対応などを検討する。
- ③ 術後回診を行い、上級医に報告し、問題があった場合には適切な対処方法などを学ぶ。

## 評価

- ① EPOC
- ② 院内臨床研修医評価表による評価